

あとがき

国防について考えるようになったのは、2013年の秋以降のことで、集団的自衛権や憲法9条の新たな解釈論が国会で問題になったことが起因しています。お恥ずかしいことに、それまで「国防」なる硬いテーマを真剣に考えたことはありませんでした。

とは言え、その後の日常は2反歩ほどの畑を自給用に耕したり、趣味である囲碁を通して中南米諸国と交流したりと、極めて平和裡なものでした。ただその間、中南米諸国の中のコスタリカが世界で唯一「軍隊のない国」と言われていると知ること、¹⁾「丸腰」である日本の可能性を探るようになり、「国防を考える市民懇話会」を立ち上げ、遂にはその結論を本の形で世に問うことを自分に課したのでした。本書はその時の検討資料をベースに新たに書き下ろしたものです。

国防関連資料の収集については、主に国立国会図書館および茨城県立図書館を利用しました。ただ特筆すべきは、普通であれば全く考えも及ばなかった防衛大学校総合情報図書館を使用させてもらったことです。ついでに記せば、この図書館の食堂で明らかに階級の違う自衛官二人が何の隔たりもなく談笑している姿を見て、遙か時代の隔たりを感じ入ったものです。

本書を手にした政治家やその道の専門家の中には「素人の甘い考えだ」と一笑に付す人がいることは想像に難くありません。しかし、専門家と称する人たちが実はその専門性ゆえに²⁾「自分の領分」から抜け出せずにいることは、本書の第1章を読めばお分かりいただけたと思います。

したがって、もし本書に何らかの「甘い考え」があるとしたら、それは戦争政策そのものから人命と生活が直接影響を被るであろう市民の皆さんによって補完していただくことを希望します。否、本書はむしろそのために世に問うたものとお考えください。

以下に、本書執筆上のお断りを。

かつて編集者だった時私は、当時参議院議員だった宇都宮徳馬先生の著作を本にしたことがあり、そのご縁で先生から宇都宮軍縮資料室発行の月刊誌『軍縮問題資料』を毎回送っていただきました。軍縮に対する先生の遺志とその時の恩義に報いるべく、本書では同誌に載った多くの貴重な言葉を借用させていただきました。

なお、右の『軍縮問題資料』をはじめ、執筆のうえで参考にした文献は180余冊に上ります。しかし、その全てをここに挙げることはせず、主要なもののみ一覧表にまとめました。

第1章の執筆にあたっては畏友・松本義之氏から多大の協力をいただきました。

最後に、本書出版にあたって、あけび書房の岡林信一氏から拙稿に対し適切なアドバイスを賜わったこと、ここに心から謝意を表します。

2021年1月

著者著す